



いわいしま通信

国東半島の地域おこしグループの皆さんとの交流会

10月7日(月)に「民宿くにひろ」において、大分県国東半島の地域おこしグループの代表の皆さんとの交流会を行いました。この交流会は、国土交通省の地域連携支援ソフト事業「周防灘30カイリ・潮の路県際間交流事業」の一環として、(財)大分県産業創造機構が国土交通省からの委託を受けて開催したものです。

「祝島ネット21」からは、会長の木村力、事務局長の國弘秀人、会員の工藤百合子の3名が参加、先方からは、「東国東地域デザイン会議」の会



交流会の様子

長の三浦勝氏(小学校事務員)、副会長の丸山順道氏(消防職員)、会員の是松章三氏(自営業)の3名、そしてコーディネーターとして、(財)大分県産業創造機構・研究調査課の深田氏、長峯氏の2名が同席されました。

自己紹介に始まり、お互いのグループの活動状況の紹介、それぞれの地域の特徴や地域の抱える問題点についての協議、相互交流を深める方法などについて、約4時間に渡って話し合いました。

尚、今回の交流会を受けて、来年1月31日に大分県国見町において、「海で繋がるまちづくり・ひとづくり」～周防灘を介した交流と観光を考える～というシンポジウムが開催される予定で、パネルディスカッションのパネラーとして國弘が参加することになりました。

小祝島で大発見！ (第2回祝島植物観察会)

8月28日、29日に南敦先生をお招きして、2回目の「祝島植物観察会」を行いました。初日は小祝島、2日目は祝島の南側の山を歩き、珍しい植物を中心に、南先生に解説していただきました。

今回の観察会は南先生のスケジュールに合わせて急遽開催が決まったこと、ハードなコース設定だったため、参加者は3名でした。

小祝島では「バクチノキ」の大木を発見しました。かなり希少な種類の植物で、これだけの大木は県内では見つからないとのことで、南先生も「県の天然記念物に指定されてもいいくらいの木

です」とおっしゃっていました。



発見された「バクチノキ」
皮がむけて幹が赤く見えるのが特徴

目次

国東半島の地域おこしグループの皆さんとの交流会	1
小祝島で大発見！	1
<連載> 祝島の歴史を探る	2
<連載> 魚・さかな・肴	3
第2回祝島不老長寿マラソン	4
<連載> 花*花クイズ	4
<連載> Let's Learn English in Iwaisima!	5
会員リレーコラム	6
お知らせ&募集	7

君が代をいく万世(よろずよ)と
すむ鶴(たづ)は
祝島より 祝ひ来つらし
(前中納言 葉室定嗣 鎌倉時代)

<連載> 祝島の歴史を探る(3) ~ 歴史舞台の表と裏 ~ 蛭子 葉子

青森県において1992年から始まった三内丸山遺跡の発掘調査で、縄文時代前期から中期の大集落跡や平安時代の集落跡、中世末の城館跡の一部が見つかりました。これは、歴史の常識を覆す大発見で、一大文化圏が「みちのく」にあった証となりました。私達の習った歴史では、「みちのく」は蝦夷(えみし)の住む野蛮な地であったということですが、その文化は密やかに伝承されてきたのでしょうか。坂上田村麻呂によって胆沢城が築かれて以来、大和朝廷に支配され、この地の歴史が抹殺されたように、歴史はその時々勝者の論理によって塗り替えられてしまうものです。

祝島にも権力闘争の後と読み取れるものが2、3あります。ひとつは第1回目に書いた神舞の起源です。神舞の起源は仁和説と仁安説のふたつがあり、三浦三軒も氏本・島中・薬師家説、氏本(氏友?)・守友・三野家説のふたつがあります。物語は全く同じで年代と家名が違うこの伝承については特に作為的なものを感じませんか。この5軒のうち三野は中蛭子の祖先であると云われており名前を見る限りどの家も現存します。その5軒のうち株内がはっきりしているのは次郎太(薬師)、大膳太夫(氏本)、島屋(島中)の3軒で、どのような争いがあったのかはわかりませんが株のはっきり残っているこの3軒が争いの勝者であり、氏本・島中・薬師家の三浦三軒説が主流となったのではないのでしょうか。

ただし、神舞の起源には時代的に矛盾するところも多く、また別の機会に詳しく書きたいと思います。

二つめは「太郎万・次郎万」の物語で、伝承されている物語には2種類あります。ひとつは島を治め、守っていた太郎万・次郎万を外からきた石丸左馬頭が闇討ちし殺してしまうという話で、もうひとつは島で暴れまわる太郎万・次郎万を石丸左馬頭が退治するという話です。これは同じ出来事が全く逆の形で残っている大変興味深い伝承のひとつだと思います。

石丸左馬頭は大和から落人となり、この島に定住し地主となり大内氏に仕え、大内氏が滅びてからは帰農して島の庄屋となりました。昭和の初めまで江尻の大部分は石丸家の土地であったように繁栄を続けた石丸氏によって太郎万・次郎万は悪者とされました。一方、西方の室積が見える高台から将来的な発展をみこして東の浜に出

てきた太郎万・次郎万の子孫である木下家は家督を継ぐ子供に太郎、次の世代は次郎というふうに「太郎万・次郎万」の名前を代々受け継ぎその功績を伝承してきました。(その伝統も残念ながら私たちの世代で途絶えてしまうことになりましたが)本当のところ、どちらが悪人でどちらが善人か今では知る由もありませんが、悪人であろうが善人であろうがそんなことにはこだわらず、現在までこれらの伝承を脈々と受け継いでいるところが祝島人の懐の広さであり、祝島の魅力でもあります。

三つめは祝島の名前です。「風土記」では現在の周防灘は「伊波比灘」と呼ばれ、「万葉集」では祝島は周防国の「伊波比島」と呼ばれています。「風土記」も「万葉集」も同じような時代に編集された書物ですから、その昔、祝島は「伊波比灘」に浮かぶ「伊波比島」だったのでしょうか。ちょうど「日本」という国が整備され始めた頃でもあり、時の権力者によりその呼び名が変えられたとも考えられますが、どなたかこの名前の変遷についてご存知の方がおられたら教えて下さい。

(注)左馬頭(さまのかみ)/歴史学者の網野氏はこの官職を「院の厩の別頭を兼ねていて淀川の牧をおさえ、馬借・車借を支配している官職で白川院政以後、院は瀬戸内海に非常な関心を持っていたと考えられる。」と書かれおり、祝島も古くから「牧」の島であることから瀬戸内海を治める官職ということ?

参考図書

- ・宮本常一著「瀬戸内海の研究」未来社
- ・網野善彦・森浩一著「馬・船・常民」講談社学術文庫
- ・(株)田中都市建築事務所・東北歴史博物館コンペ調査資料





(写真)みちのく・多賀城廃寺跡と多賀城史跡周辺
〔(株)田中都市建築事務所現調写真より〕

多賀城は鎮府城が胆沢城の造営によって移されてから後も陸奥国府として、また前九年、後三年の奥州の乱では治所、源頼朝の奥州藤原氏討伐の際には滞在所として史上にその名をとどめています。

栄華を誇った藤原三代の冬枯れの景色に佇む中尊寺と暮れも押し迫った多賀城跡の荒涼とした風景は、兄に

追われて藤原氏を頼り、この最果ての地まで逃れてきた義経の悲哀を写す鏡のようでした。

義経も壇の浦の戦いに加勢する際、祝島の沖を通り無事に帰れることを祈ったのでしょうか。

<連載> 魚・さかな・肴(3) ~チダイ~

木村 力

マダイによく似た魚です。

エラぶたのふちが赤い血の色だから、この名前が付いたのではないかと思います。

マダイは尾ビレの端が黒いけどチダイはその黒色がありません。また、チダイは背ビレに1本長いのが有るのも、マダイと見分けやすい点です。形はマダイより丸めで、厚さが少し薄く、色も薄いです。小さい頃は華奢な感じですが大きくなるとデビチン(おでこ)が出て、同じ大きさのマダイよりは、ずっといかつい感じになります。

味はマダイに負けないくらいです。煮付けは淡泊ながら特に旨い。瀬戸内海ならではの味と、瀬戸内海人の私は感じます。マダイより少し身がやわらかいように思います。

35年くらい前には、このチダイを釣りに祝島から南に向かって2時間くらい船を走らせて出ていました。伊予灘の中央あたりだったでしょう。みんな小さい船でした。



若いチダイ



小さいチダイをこんな風に刺身にしたものを貰いました。綺麗です。

第2回祝島不老長寿マラソン」にご協力ありがとうございました

8月11日(日)に「第2回祝島不老長寿マラソン」を開催しました。北は埼玉県から南は宮崎県まで、全国から130名のランナーが参加され、真夏の祝島を舞台に爽やかな汗を流しました。

大会当日あるいは大会前の準備には、たくさんの島民の皆さんや祝島ネット21会員の皆さんにご協力いただき、大変感謝しております。

参加されるランナーの皆さんはもちろん、大会を支えてくれるボランティアの皆さん、そして応援してくれる観客の皆さんも、みんなが楽しめるようなイベントとなるように、工夫をしていきたいと考えています。今後ともご協力よろしくをお願いします。

尚、大会参加費収入の5%にあたる19,400円を、「祝島ネット21神舞基金」に寄付させていただきました。

< 祝島不老長寿マラソン実行委員会 國弘、木村 >

右の写真はボランティアとして参加された会員の皆さんです。(紙面の関係で全員は掲載できませんので、ご了承ください。)



コース誘導係・江本友之輔さん



北野給水所・藤本万太郎さん



13kmの部スタート



本部給水所・花田恵美代さん

花*花クイズ(2)

橋部 好明

前回の「花*花クイズ」の答えは、「葛(かずら)」でした。

山野のいたるところにみられる大形のつる状の草木で、茎の基部は木質となります。根は太く大きく、地中にあり、多量のでんぷんを含んでおり、葛粉が取れます。



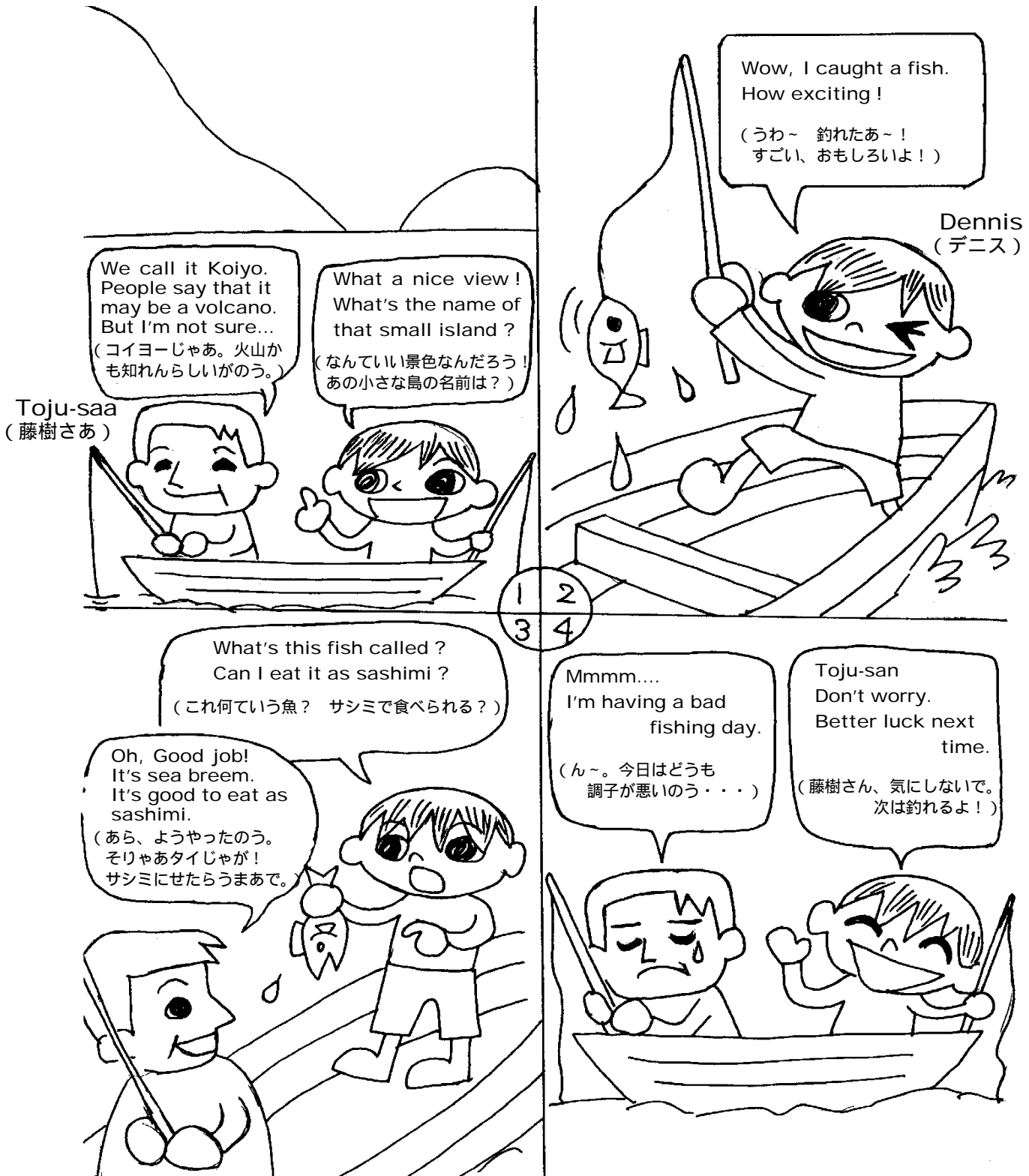
いつかどなたかも、言われてましたが、ものすごく繁殖力がありますので、祝島が、葛に覆われてしまうのではないかと、危惧しています。

さて、今回の問題は右の写真です。この植物はいったい何でしょうか？ これは簡単な？



Part1. Dennis's first visit to Iwaishima (3)

* デニス是我的の友達です。



(あらすじ)
 祝島にやって来て、山本の藤樹さあの家泊まることになったデニス。今回は藤樹さあに連れられて、沖に出て釣りをしました。
 デニスと藤樹さあの顔が前回より若返っているような気がしますが、これは著者が多忙のため、代わりに教え子が描いてくれたためです。なかなかカワイイでしょ。

会員リレーコラム(3) ~ 工藤 重正さん・百合子さん ~

このコーナーは「祝島ネット21」の会員の皆さんに、自己紹介を兼ねて簡単なコラムを書いていただくコーナーです。第3回目は工藤さんご夫妻の登場です。



今年の4月、青森県南津軽郡にある「陸奥常盤郵便局」から「祝島郵便局」に異動してきました。工藤重正(くどう・あつまさ)と申します。本籍は南津軽郡浪岡町大字女鹿沢というところですが、実際居を構えていたのは、米とリンゴの産地で温泉の豊富な黒石市です。1952年10月生まれですから、50才になったばかりです。

祝島に暮らしてみても約半年になりますが、祝島に住んでいる人、祝島の出身者の方に共通していえることは祝島人であることの誇り、ふるさと祝島に寄せるなみなみならぬ情愛の強さではないかと思いました。暗くなるまで遊んでいて家に帰り、飯台の前に座っている母親を見てほっと安心するような、いつ帰っても同じ道があり、家並みがあって、そこに昔美人妻(今も現役バリバリの美人妻です)だったおばさんたちが居て、誰ももなく迎えてくれる一言ひとことなどが、祝島人の健全性の源なのかも知れませんね。津軽衆から見つづくそう感じています。かなり羨ましく思っています。

祝島人の仲の片隅に居ますので、みなさん、よろしくをお願いします。

<工藤重正>



青森県黒石市・黒石ねぶた



かつて人生50年の時代があった。大台に乗る50才の区切りの年に郷里、祝島に帰ろうと思立ったのは、娘の進路が引き金になったのは言うまでもない。

新婚生活を過ごした東京から夫の故郷へ居を移し、移り住んだ黒石の地で娘は生まれ育った。

私が30才になって授かった1人娘を社会に出たとき困らないようにと、家を巣立つ高校3年生まで気遣いながら育てて来たが、高校1年の春、母親の私が娘に手を掛けすぎだと減らず口を叩いたことがあった。詳細を聞いた後、若木に例えて、植物でも人間でも如何に土から下の目に見えない部分を手厚く育むことが大事であるかを諭したことがあったが、今ではすっかり大人になり、うら若い我々を案じてくれるほどに成長した。

その娘が小学校6年生の年の4月から私は、黒石市役所に勤める事となり、平成14年3月まで市行政に携わって来た。

黒石市教育委員会で社会教育指導員として在職中の3月15日に教育委員に任命されたが、祝島への帰省を控え、3月26日に開かれた会議に出席しただけの任期であった。

思い起こせば充実した日々であった。お陰で、行政に携わった8年間の間にグアム島への観光旅行、韓国への国際交流の旅、男女共同参画社会推進のための北欧(ノルウェー・デンマーク)視察の旅と実りある一時を過ごす事が出来たことに対し、夫を初め、居場所を提供してくれた事に感謝している。これからも、何歳になってもチャレンジ精神は持ち続けフレキシブル(柔軟)に対応して行きたいと思っている。

5月から祝島郵便局へ非常勤として夫と席を並べています。因みに、私昭和42年祝島中学校卒業生の旧姓河本百合子と申します。

<工藤百合子>

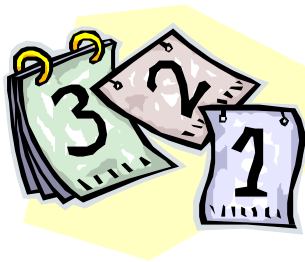
活動紹介

2003年カレンダー製作

今年に引き続いて、2003年の祝島卓上カレンダーの製作準備中です。

来年のカレンダーは、「祝島の草花シリーズ」の予定です。会員の橋部好明さんに写真の提供をお願いしています。

今回も会員の皆さんには、1部ずつプレゼントします。年末には完成する予定ですので、お楽しみに！



お知らせ & 募集

『島の細道』紀行文募集 締め切り迫る!!

締め切りがだいぶ近づいてきました。まだまだ応募者が少ないので、宣伝をお願いします。会員の皆さんからの応募も待ってます。

募集内容：祝島の細い道を歩いてみて、感想を紀行文風に書いてください。

応募規定：400字詰原稿用紙5枚以内。

ワープロの使用可。

応募資格：祝島を訪れた人なら誰でも可（祝島出身者も可ですよ！）

締め切り：2002年12月31日（消印有効）

賞品：祝島の特産品など

応募先：祝島ネット21『島の細道』係

詳しくはホームページ、ポスターで。

<http://www.iwaishima.jp/inet21/hosomichi/>

「祝島ネット21」メーリングリストについて

メーリングリストとは、インターネットを使って会員間の情報交換を手軽に行うもので、下記のアドレスに電子メールを送るだけで、登録されている会員の皆さん全員に、その電子メールが自動配信される仕組みになっています。

メーリングリストアドレス inet21@iwaishima.jp

メーリングリストを使うには事前登録が必要で、登録されていないメールアドレスから上記アドレスに電子メールを送っても自動配信されません。

現在は約30名の会員の方が登録されています。新しく登録したい方、登録を解除したい方、メールアドレスが変わった方は、事務局の國弘までご連絡ください。國弘のメールアドレスは、kunihiro@iwaishima.jpです。

編集後記

秋が深まってだいぶ寒くなりましたが、皆さん風邪など引いていませんか。

会報第3号が出来ました。前号までより1ページ増えて7ページになりました。編集・印刷作業はちょっと大変になりますが、話題が多いことはうれしいことです。そろそろ自前のプリンタで丸一日かけての印刷ではなくて、印刷屋さんへ発注することも検討したい気もしますが、カラー印刷だとかなり高くつきそう・・・。

ところで、毎回表紙の右下のスペースに祝島が登場する短歌を掲載してきましたが、今回で早くもネタが尽きましたので、次回からは皆さんの自作の作品を募集したいと思います。俳句・川柳・短歌どれでもいいですから、祝島を題材にしたものをぜひお寄せください。お待ちしております。

次号は来年1月発行の予定です。お楽しみに。

（編集長：國弘秀人）

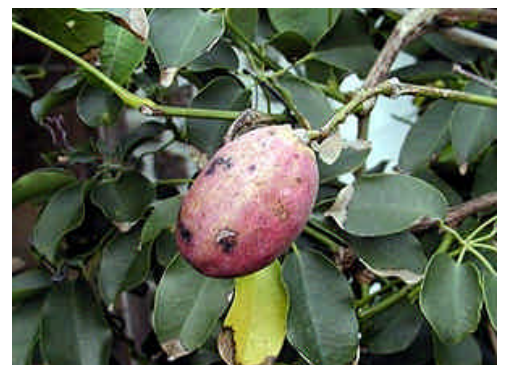
事務局では会員の皆さんからの投稿をお待ちしております。ご意見・ご感想など、お気軽に投稿してください。

祝島ネット21の活動費は、会員の皆さんの会費でまかなわれています。この会報を会員の募集活動にもぜひお役立てください。

《発行》 祝島ネット21事務局

〒742-1401 山口県熊毛郡上関町祝島

ホームページ <http://www.iwaishima.jp/inet21/>



秋山ではウベの実が色づいています